

National SUN at ちゅら SIM 開催

医療シミュレーション教育関係者が一堂に会する機会に

さる2月17-18日、琉球大学内に昨年完成したおきなわクリニカルシミュレーションセンターにおいて、シミュレーション教育をテーマとする大規模セミナー「National SUN at ちゅら SIM」(共催:同センター, レールダルメディカルジャパン)が開催された。病院や教育機関でシミュレーション教育を行なっている医療従事者を対象に企画され、200名もの参加者が職種を超えて集まった。

略称SUNと呼ばれる本セミナーはsimulation user networkの頭文字を取っている。日本では初めての開催となったが、アメリカ、ヨーロッパにおいてはすでに何度も開催され、回を追うごとに規模が拡大している。

臨床現場での技術演習・トレーニングが難しくなっているのは国際的な共通課題であり、実践力を育成する教育方法としての「シミュレーション教育」に対する注目も国際的に高まっている。National SUNは、教育手法や課題を共有し、解決する場として有効だ。

2日間で、いまの現場の課題に応えるさまざまなプログラムが実施された。特に現在の関心や課題を反映するように、看護に関連するセッションや、シナリオ(教材)作成および指導スキル(デブリーフィング)のセッションには、多くの参加者が集まった。

● 2日間のプログラムから

増山純二氏(日本赤十字九州国際看護大学)と山崎早苗氏(東海大学医学部付属病院)は、「IDに基づいたsimulation planning」と題し、教育・研修の計画-実践-評価に有効なインストラクショナルデザインをテーマに講演。基礎・臨床の看護教育におけるより効果的な教材や研修計画の作成の仕方について、急変対応など具体的な事例を示しながら、実践的なレク

チャーを展開した。

また、阿部幸恵氏(琉球大学)は「明日から使える効果的デブリーフィング」と題し、新人看護師の夜間巡視のシナリオを取り上げたハンズオンセミナーを展開した。会場には琉球大学医学部附属病院の新人看護師が実演モデルとして登場し、新人看護師からデブリーフィングで気づきを引き出す技法について実践的な解説が行なわれた。

初日の全体セッションでは、世界的に有名なシミュレーションセンターであるピッツバーグ大学の「WISER」で1年半フェローを務めた医師、岩下寛子氏(獨協医大越谷病院)が講演した。

岩下氏はそのなかで、「アメリカのセンターはシミュレーション教育を実施するだけではなく、医学・医療教育を集積する研究拠点となっている。わが国の医学・医療シミュレーション教育においても、教育関係者の関心は、単なるテクノロジーを用いた教育としての枠組みを超え、シミュレーション教育を通じた教育全体の新しいメソッド、セオリーの構築へとシフトしつつあると感じる。今後、教育関係者が連携して、効果的な教育・指導方法や、学習効果を高めるための方略、といった課題へのアウトカム研究をめざしたい」と語った。



阿部幸恵氏のハンズオンセミナーのもよう。実践的なレクチャーとなった。

National SUN やおきなわクリニカルシミュレーションセンターなど、関係者が集まる場に、知が集積され、教育に還元されていくことに期待したい。

● 看護師対象の主なプログラム(本文で紹介したものを除く)

- ・看護基礎教育におけるシミュレーション学習(岡谷恵子氏, 永島美香氏)
- ・看護教員のためのクリティカルシンキング(池上敬一氏)
- ・院内研修担当者のためのシナリオ作成ワークショップ(津嘉山みどり氏)
- ・看護基礎教育カリキュラムにおけるシミュレーション教育の効果的活用(大川宣容氏)
- ・院内シミュレーション教育の実践(森安恵実氏)
- ・急変兆候に対応しよう(浅香えみ子氏)